

平成20年度胆振管内観光入込客数の状況について

北海道胆振支庁
平成21年6月

1 概要

胆振管内の平成20年度の観光入込客数は15,749.4千人となり、前年度(16,216.7千人)に対し97.1%と467.3千人減少しました。(上期:前年度比98.6%、137.4千人の減少 下期:同94.7%、329.9千人の減少)

減少の要因としては、上期は物価の上昇、ガソリン価格の上昇による消費マインドの低下、下期は急激な世界不況による国内景気の落ち込みから、旅行需要が減少したことが大きく影響していると考えられます。

また、サミット開催に関連しては、開催前には周辺地域で関係者の宿泊が増加したものの、道内外の観光客には警備強化のために敬遠されたと考えられます。

上期:4月~9月、下期:10月~3月

(道外・道内別)

- ・ 道外観光客は5,206.9千人(構成比33.1%)で、前年比95.1%と昨年に比べ、270.2千人減少しました。
- ・ 道内観光客も10,542.5千人(構成比66.9%)で前年比98.2%と197.1千人減少しており、道外客の減少が大きくなっております。

(日帰・宿泊別)

- ・ 日帰客は12,825.8千人(構成比81.4%)で前年比98.2%と239.8千人の減少しており
- ・ 宿泊客数は2,923.6千人(構成比18.6%)で前年比92.8%と227.5千人の減少、宿泊客数延べ数は3,157.7千人で前年比94.0%と201.4千人減少しております。

観光入込客数が減少する中、胆振地域においては、サミット開催地としての知名度や「食」、「文化」、「体験」など、この地域ならではの資源を活かし、サミットを契機に訪れた観光客にもう一度来てもらえるような、多彩で魅力ある観光地づくりを目指した取組を進めていく必要があります。

2 市町別状況

(1) 室蘭市 (入込数:1,124.6千人 前年度比:90.3% 対前年度増減数:120.9千人)

上期:ガソリン価格の高騰、北海道洞爺湖サミットに伴う交通規制、「むろらん港まつり」の主要イベントでの荒天等が影響で減少しました。(前年度比:95.8%、対前年度増減数:86.8千人)

下期:世界的な景気の落ち込みで旅行の敬遠ムードが高まりで減少しました。(前年度比87.1%、対前年度増減数:34.1千人)

(2) 苫小牧市 (入込数:1,400.4千人 前年度比:98.0% 対前年度増減数:28.8千人)

上期:「全国高等学校選抜アイスホッケー大会」等、全国規模の大会による影響で増加しましたが、全体的にはガソリン価格高騰の影響で減少しました。(前年度比:97.2%、対前年度増減数:21.0千人)

下期:11月に「2008ラリージャパン」が開催され唯一増加しましたが、それ以外の月は世界的な景気の落ち込みで減少しました。(前年度比:98.4%、対前年度増減数:7.8千人)

(3) 登別市 (入込数:3,061.7千人 前年度比:92.8% 対前年度増減数:239.3千人)

上期:「北海道洞爺湖サミット」の効果はあったものの、ガソリン価格の高騰が大きく影響し減少となりました。(前年度比:95.8%、対前年度増減数:76.6千人)

下期:世界的な景気の落ち込みにより観光客(特に外国人観光客)が減少しました。(前年度比:88.9%、対前年度増減数:162.7千人)

(4) 伊達市 (入込数: 2,072.5 千人 前年度比: 110.3%、対前年度増減数: 193.7 千人)

上期:「北海道洞爺湖サミット」関連の警備関係者が滞在した期間は、例年を大きく増加しました。(前年度比: 126.8%、対前年度増減数: 240.2 千人)

下期: 景気悪化による、ドライブ観光等で出控えにより減少しました。(前年度比: 95.3%、対前年度増減数 46.5 千人)

(5) 豊浦町 (入込数: 407.1 千人 前年度比: 97.7% 対前年度増減数: 9.6 千人)

上期: 6月は「豊浦いちご豚肉まつり」の好調で増加しましたが、それ以外の月は天候不順、「北海道洞爺湖サミット」の影響等で減少しました。(前年度比: 97.5%、対前年度増減数: 7.1 千人)

下期:「豊浦北の収穫祭」の好調で増加しましたが、「道の駅とようら」の不調により全体的に減少しました。(前年度比: 98.1%、対前年度増減数: 2.5 千人)

(6) 洞爺湖町 (入込数: 3,142.1 千人 前年度比: 93.0% 対前年度増減数: 237.7 千人)

上期:「北海道洞爺湖サミット」開催前は各国先遣隊やプレス関係者及び警備関係者の好調で増加したが、その後がガソリン価格の高騰の影響で減少しました。(前年度比: 96.1%、対前年度増減数: 85.9 千人)

下期: 世界的な景気の落ち込み、全体的に大きく減少した。(前年度比: 87.2%、対前年度増減数: 151.8 千人)

(7) 壮瞥町 (入込数: 1,768.6 千人 前年度比: 93.9% 対前年度増減数: 114.1 千人)

上期:「北海道洞爺湖サミット」前は増加していましたが、サミット期間前後による交通規制・ガソリン価格の高騰の影響で大きく減少しました。(前年度比: 89.0%、対前年度増減数: 139.7 千人)

下期:「昭和新山国際雪合戦」の観光客増加、「道の駅そうべつ情報館」の好調で増加しています。(前年度比: 104.2%、対前年度増減数: 25.6 千人)

(8) 白老町 (入込数: 2,079.4 千人 前年度比: 107.6% 対前年度増減数: 146.6 千人)

上期:「北海道洞爺湖サミット」の影響で一般客が減少したものの、サミット関係者が数多く宿泊しました。(前年度比: 106.3%、対前年度増減数: 71.1 千人)

下期: 主要宿泊施設の営業再開が増加につながりました。(前年度比: 109.3%、対前年度増減数: 75.5 千人)

昨年で3年目を迎えた白老町戦略的観光推進事業(JTB北海道委託事業での「ポロトコタンの夜」、「登別白老まちめぐりパス」などの展開)や、新たに食と観光の連携として取り組んだ「しらおいシーフードカレー」や昨年からの「白老バーガー&ベーグル」などが、観光客減少に歯止めをかけ、更なる観光客増加に効果を上げています。

(9) 安平町 (入込数: 338.3 千人 前年度比: 95.7% 対前年度増減数: 15.3 千人)

上期: 天候不順によるゴルフ客の減少、ディープインパクト見学者の落ち込み、キャンプ場の入込の減少などが影響し全体を通して減少しました(前年度比: 91.6%、対前年度増減数: 20.6 千人)

下期: スキー場のオープンが昨年より早く、1月は大きく増加しました、雪解けの遅れでゴルフ場のオープンが遅れ、減少しましたが、全体としては増加となりました。(前年度比: 104.9%、対前年度増減数: 5.3 千人)

(10) 厚真町 (入込数: 116.9 千人 前年度比: 106.2% 対前年度増減数: 6.8 千人)

上期: 6月のイベント、「あつま田舎まつり」の会場を変更したことにより、観光客が増加しました。(前年度比 116.1%、対前年度増減数: 12.1 千人)

下期:「こぶしの湯あつま」が施設改装で3月31日まで臨時休業となっていたため減少しました。(前年度比: 84.9%、対前年度増減数: 5.3 千人)

(11) むかわ町 (入込数: 237.8 千人 前年度比: 82.9% 対前年度増減数: 49.0 千人)

上期: 各施設入館者数減少やイベント時の悪天候が影響し減少しました。(前年度比: 86.8%、対前年度増減数: 23.1 千人)

下期: 各施設入館者数減少のほか、むかわ四季の湯の施設改修による入館日の制限を設けたことが影響し減少しました。(前年度比 76.3%、対前年度増減数: 25.9 千人)

平成 20 年度訪日外国人宿泊者数の状況について

北海道胆振支庁

平成 21 年 6 月

1 概要

平成 20 年度の訪日外国人宿泊者数(延べ数)は 425,698 人 で、前年度比 93.3%と 30,565 人 減少しましたが、ビジット・ジャパン・キャンペーンが開始された平成 15 年度比では 217.1%と 228,662 人 の増加となっております。

上期はアジア地域を中心に増加しましたが、下期には世界金融危機による激しい景気後退・円高の影響もあり、台湾・韓国は大きく減少しました。

しかし、定期航空便の拡大や、新規のチャーター便の影響もあり、中国、香港、シンガポールは増加しています。

外国人宿泊者数(延べ数) 平成 19 年度：456,263 人 平成 15 年度：196,036 人

ビジット・ジャパン・キャンペーン

2010年に訪日外国人旅行者数1,000万人を目標に、日本観光の魅力を海外に発信・日本への魅力的な旅行商品の造成等を行う事業で、国土交通省が中心となって官民一体で取り組んでいる。

2 圏域、国別

<アジア圏>

- ・ アジア全体では、409,813 人 で前年度比 93.6%と 32,542 人 減少しましたが、平成 15 年度との比較では 217.9%と 221,704 人 増加しています。
- ・ 胆振管内に宿泊した 96.3%の外国人が台湾、韓国、香港などアジア圏からの旅行者となっております。

(アジア各国の状況):下記の3国で、全体の80.7%と当地域の外国人宿泊客数の8割以上を占めています。

- ・ 台湾：194,528 人 で全体の 45.7%、前年度比 83.3%と 38,978 人 減少しました。
- ・ 韓国：84,262 人 で全体の 19.8%、前年度比 76.4%と 26,084 人 減少しました。
- ・ 香港：64,834 人 で全体の 15.2%、前年度比 114.7%と 7,033 人 増加しました。

- ・ シンガポールは 31,959 人 で全体の 7.5%と、小さいものの、前年度比 149.3%と 10,552 人 の増加、平成 15 年度比では 4188.6%と 31,196 人 の増加となっており、シンガポールは今年度初めて中国を上回る宿泊延数となりました。
- ・ 中国についても 28,364 人 で全体の 6.7%と、シンガポールと同様に小さいものの、前年度比 142.1%と 7,939 人 の増加、平成 15 年比では、665.0%と 24,099 人 の増加にあります。
- ・ 中国やシンガポールにおける増加は、官民あげての積極的なプロモーション活動の成果が現れてきているものと考えられます。

<その他の地域(欧米など)>

- ・ ヨーロッパ地域が 4,933 人 (全体の 1.1%)で、前年度比 183.9%と 2,251 人 の増加、北米地域が 8,675 人 (全体の 2.0%)で、前年度比 172.2%と 3,638 人 の増加となっております。